

# 神のやま

第9号



播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会

<表紙写真> 令和6年度地域文化財総合活用推進事業  
「総社で楽しい夏休み三ツ山づくりもの体験会」参加作品

学年  
名前  
3年  
大

# 伊和の神々と三つ山

歴史研究家 岩井 忠彦

## はじめに 伊和大神と伊和里

播磨国一宮の伊和神社は、揖保川上流の宍粟市一宮町須行名に鎮座しています。このあたりは、古くは伊和里と呼ばれていました。奈良時代（八世紀初頭）に編纂された日本最古の地誌『播磨国風土記』はここを播磨国占めの神である伊和大神鎮座の地とし、大神や伊和の神々のさまざまな伝承を各地で採録して、今に伝えていきます。

この伊和神社には謎があります。地形などの制約がなければ、神社は南面しているのが普通です。



播磨国一宮 伊和神社



伊和里(花咲山から)中央に見えるのが伊和神社の社

座しているにもかかわらず、北を向いているのです。なぜでしょう。これは、伊和の神々について考える時、避けて通れない問題です。

## 一 伊和神社北面の謎

伊和神社北面の理由は、伊和神社の正式名称、伊和坐大名持御魂神社から説明されてきました。大名持神は、出雲神話で有名な大國主命の別名です。だから、伊和の神は出雲の神だった。そのため、大和政権が播磨に進出し始めた時、この神々を奉祀していた伊和の豪族は出雲側に立って抵抗し、滅ぼされた。それで神社も大和に背を向け、出雲を望んでいるのだ、とするのです。

これが定説化したのは戦後で、次のような歴史学的根拠によります。まず、大和政権は服属した地方豪族に前方後円墳の築造を認め、三角縁神獣鏡など銅製鏡を与えた。それは播磨でも多数確認されているが、揖保川上流域にはみられない。また、伊和の豪族の子孫は『播磨国風土記』の飭磨（飾磨）郡伊和里（姫路市手柄山の西南方一帯）の条に、伊和の君の一族がここに來住した、とみえるだけで、以後歴史から姿を消してしまふ。この二点でした。

ところが昭和五十七年、伊和神社東方の小丘陵・通称寺山の頂上付近で前方後円墳、伊和中山1号墳が発見されました。翌年には本格的な調査が行われ、銅鏡・勾玉の首飾り・鉄剣など、多数の副葬品が出土しました。これで第一の理由は消えました。また、平安時代末期の保延七年に田原（福岡町）が莊園となった際の「鳥羽



発掘前の伊和中山1号墳 前方部から後円部をみる



白倉山 伊和神社参道から

求め、御方（三方、一宮町）で決着して但馬に去るまでに限られません。その中で、宍粟郡波加村（波賀町）の説話には、天日槍命が（葦原志拳乎命ではなく）伊和大神より先に着いた、とあります。神前（神崎）郡条には、天日槍命が八千軍（八千種、福崎町）に八千の兵を集めて、梗岡（姫路市船津町）の伊和大神と戦った、という説話があります。それによって、伊和大神と葦原志拳乎命を同一神とするわけです。

院庁下文案」に、この土地は播磨国大掾伊和豊忠先祖相伝の所領だった、とあり、その土地や役職を受け継いだ六人の子孫の名も記されています。掾は国衙第三位の高官で、大国とされた播磨には大小二人が置かれていました。飾磨郡伊和里に来た伊和君の「君」も、大和政権が地方豪族に与えた例が多い姓（かばね）ですから、これとも符合します。伊和神出雲伝来説は白紙に戻りました。

## 二 伊和神は出雲ではなく播磨の神

とはいえ、大名持命と別名同神の出雲の神、葦原志拳乎命や大汝命の説話は『播磨国風土記』にも採録されています。ここにも、伊和の神は出雲に由来するとされる理由があります。

葦原志拳乎命の説話は、天日槍命が揖保川尻に来て住む土地を



花咲山



高畑山 右は伊和神社の杜

ところが、新羅の王子天日槍が渡来し、各地を巡った後但馬の出石に永住した、という詳しい記述が『日本書紀』にあります。天日槍説話はそれが播磨に広がった後に生まれた、あるいは従来の伝承の神名が天日槍命に変わったものとみられます。葦原志拳乎命説話は揖保川流域に限られ、眷属神もなく、三十近い説話と十五柱の眷属神がある伊和大神とは異なります。右のような天日槍との接点だけで同一神とするのは無理で、葦原志拳乎命も他の出雲からの神々と同様に、伊和神説話の定着後に伝来した神格と考えるべきでしょう。

大汝命と伊和大神の同一神説は、神社の正式名称によります。しかし、神社の建立が始まるのは寺院よりも後のことです。また、七世紀後半に神祇という言葉が『日本書紀』に現れ、やや遅れて神祇官が登場します。こうして神々の系譜化が始まり、神社の正式名称の統一が次第に地方へと進みます。播磨で初めて天皇家の祖先神の名を受けた神社、粒坐天照神社（たつの市龍野町）が現れるのもこのころです。住民の信仰や歴史的経緯よりも、中央権力の意

向を中心にしたのと思われます。そのためか正式名称の普及は遅れ、伊和神社の名称も、九世紀初頭の大同元年の「神事諸家封戸」でさえ混乱がみられます。神社の起源も正式称号の誕生も伊和神説話の成立より後なので、大汝命は大名持命、だから伊和大神も、とはいえません。

伊和の神々は、出雲ではなく古代播磨の神だったのです。

### 三 伊和神社と伊和三山

改めて『播磨国風土記』を読みましよう。伊和神の説話はしばしば、磐座つまり巨岩巨石がある山や、左右対称にみえる、神名備形の山や丘が舞台になります。大神の眷属神、建石敷命の説話がある神前山（福崎町）は前者の、大神説話がある粒丘（いひぼ丘）に比定される中臣山（中陣山、たつの市揖保町）は後者の一例ですが、いずれも郡名の起こりとされます。それは、大神の国占め伝承にもかわるよう思われます。また、建石敷命や石龍比売など、眷属神の名の「石」は、神々の磐座を連想させます。

伊和大神が国占めから帰って「於和、我が美岐にまもらむ」と



花咲山の磐座

言った、と『播磨国風土記』にみえる伊和里。揖保川右岸にある伊和神社の御旅所近くからは、弥生時代の祭祀具の銅鐸（雲箇銅鐸）が発見されています。そのころにも、この里が神々の信仰と祭

祀の場だったことがわかります。その平野部は、東を白倉山、西を高畑山、そして北を花咲山に囲まれています。それぞれの山上には巨大な磐座があります。この三つの山は、総称して伊和三山と呼ばれます。

伊和神社は、白倉山と高畑山を結ぶ東西線上のほぼ中央に、北面して鎮座しています。春分・秋分の前後には、南北に並ぶ神社の間にまで陽光が射し込むのです。そして北をみれば、神名備形の花咲山があります。伊和神社北面の理由は、三山とのこのような地理的位置にある、と考えるのが至当ではないかと思われま

す。神社のあたりで見ていると、朝日は白倉山に昇り、まず高畑山の山頂が明るくなります。それが次第に麓へ広がるころ、花咲山の山頂が陽光を浴びます。そして伊和の里全体が陽光を受け、朝が訪れます。その光景には一種神秘的な荘厳さを感じます。古代の人々が畏怖の念を覚え、ここに神をみたとしても不思議はないと思われま

### 四 伊和神社の三つ山大祭

この神社で最も大きな臨時祭が、六十一年目ごとに行われる三つ山大祭です。甲子の年に挙行されるので甲子大祭、また、この時にだけ神殿のすべての扉が開かれるので、三つ山大祭御戸開とも呼ばれます。三つ山大祭の「三つ山」が伊和三山に通じること

は、もはや述べるまでもないでしょう。三つ山大祭については、中世以前の史料が残っておらず、その歴史の詳細を知ることができません。最近では昭和五十九年、つまり四十一年前の甲子の歳の、十月十三日から十六日まで四日間

にわたって行なわれました。

さまざまな準備が整えられ、仮遷座祭や本遷座祭が斎行されました。中でも伊和三山への遷座祭は、伊和神を考えるうえでも注目すべき神事です。新調された小社殿を、三山それぞれの山上にある磐座へと運び上げるのです。立木や岩石など障害物が多い、急勾配で曲折が続く山道なので、多くの人の力や技術が必要ですが、これによって神々を迎える準備が整います。大神神社（奈良県桜井市）は三輪山そのものが御神体ですが、これを見ると伊和三山はそうではなく、神々がその磐座に降臨する場、と考えられていたことがうかがわれます。汚れを厭い清浄を求める神々が、神社に常在するようになる以前の、始原的な祀りが偲べれます。

神々を神の山に迎えて、大祭が始まりました。屋台の練り合わせ・餅まき・傘踊り・歌謡ショーなどが行われ、普段は静かな町が多く、参拝者や見物客で沸き立ちました。一方、巨木の杜の中の神社では、さまざまな神事が厳かに斎行され、その節目ごとに巨木の向こうの三山が遙拝されるのが印象的でした。また、三山祭も行われ、大祭における三山の意味の重さを感じられます。伊和の神々が、伊和里から播磨に広がった播磨由来の神であること、また、伊和三山が神の山であることが、改めて実感されました。

伊和神社には二十一年目ごとの一つ山大祭があります。最近では、令和六年十月に行われました。一つ山は、花咲山と白倉山の間、神名備形で磐座のある宮山を指します。この祭りも淵源は明らかではありませんが、中世に盛んになったのではないかと、という説があります。三つ山大祭は間隔が長いので、前回の経験者が少なく、細部の記憶が失われやすかったはずですが、結果的に、それを補う役割も果たしたと思われれます。

## 五 総社の三ツ山大祭へ

この三つ山大祭が総社の三ツ山大祭に関連することは、江戸時代の多くの歴史家や文人の見解が一致するところですが、

律令時代の国司は、任国に赴任するとまず、国内の主要な神社に参拝しました。神々の代理としてこの国を治めることを報告し、その加護を祈るためです。しかし当時の交通事情では、国中を回るは大変なことでした。そこで、国衙に近い主要な神社にそれぞれを分祀して総社とし、そこで礼拝することになりました。史料で確認できるのは、十一世紀末の承徳三年、因幡の国司として赴任した平時範の日記『時範記』に、着任してすぐに総社に参拝した、とみえるのが最初です。射楯兵主神社が総社となったのもその前後でしょう。

その時、伊和神社とともに三つ山大祭も伝えられ、それが三ツ山大祭として総社でも継承されている、とする先学の指摘に間違いはないでしょう。

総社の三ツ山大祭は、最近では平成二十五年に執り行われました。多くの人々にぎわう門前に立って思いました。五色・二色・小袖の三基の置山は、伊和の白倉・高畑・花咲三山を象徴しているのではないかと。しかもその山頂の山上殿を見れば、観客の目を集める美しい置山も、伊和三山同様に神の山であることがわかります。古代播磨の伝統は、形や所を変えながら今も生きているのです。社会の変化で氏子が減少し、少子化で若年層が少なくなる、など、さまざまな問題や障害がありますが、叡智を集めてそれを克服し、この歴史的文化的な遺産を後世に伝えなければならぬと、改めて思います。

## 令和六年度 保存会活動報告

### 令和六年度役員会並びに 特別講演会「伊和の神様と三ツ山」

(令和六年七月二十四日)



令和六年度の役員会並びに特別講演会を、播磨国総社総社会館にて開催しました。

役員会は、役員三十二名の出席、二十九名の委任状により開会しました。

田中会長の挨拶では、「当保存会は一ツ山大祭・三ツ山大祭充実を図り、全国からお越しただく方々が『楽しい祭り』を体験できるように頑張ってきました。そして、今までの活動は、つくりものの製作、山に飾る小袖の陰干し、謡囃子の復興などを行ってきました。

今年度は小学校三・四年生を対象に、三ツ山の玩具づくりを予定しています。祭りは次々と世代を超えて引き継いでいかなければなりません。子どもたちに大祭の面白さ嬉しさを味わってもらい、次の大祭には成人として活動の中心となってほしい」と意欲を述べられました。

引き続き、姫路市長 清元秀泰様(当会顧問)のご名代として、

姫路市観光経済局局長 大前晋様(当会常任委員)より、清元市長のメッセージをご披露頂きました。

続いて議案の審議に入り、第一号議案令和五年度事業報告、第二号議案令和五年度収支決算書(案)が説明され、一同異議無く承認されました。

第三号議案役員改選については、本役員会に際し役員の皆様からご辞退の申し出もなく、名簿の通り役員が決定した旨の説明があり、異議なく承認されました。

第四号議案令和六年度事業計画(案)、第五号議案令和六年度収支予算書(案)について説明がなされました。

令和六年度予算において補助金額が前年より減少している事について質問がありました。宇那木オプザーバーより、文化庁への

令和六年度の補助金採択件数が増加し、補助金額の修正指示によるものと説明がなされ、一同異議無く承認されました。

役員会後、午後三時から特別講演会を開催しました。

講師に、歴史研究家 岩井忠彦氏をお迎えし、「伊和の神様と三ツ山」の講演をいただきました。参加者は資料を見ながら熱心に聴講していました。





**総社で楽しい夏休み三ツ山づくりもの体験会・指導者講習会**

講習会（令和六年七月二十九日～八月十六日）  
体験会（令和六年八月十九日～八月二十日）

今年は、地域の子どもたちに三ツ山大祭について知ってもらおうと三ツ山の玩具づくりのイベントを開催することになりました。

子どもたちが参加しやすい夏休みの開催で、工作の技術のレベルを考慮、また次回の三ツ山大祭のときに担い手となってほしい希望も込めて姫路市内の小学三年生・四年生を対象としました。

えかき・ものづくり作家 ドウノヨシノブ氏に、玩具の設計をしていただき、保存会の会員の方に指導者となってもらうためのプログラムを組んでいただきました。

イベントの為に素材づくりが始まりました。紙コップに紙粘土を付け山となる部品を量産していきます。やすりがけをして表面がなめらかなるように丁寧に作業しました。乾くのにも時間を要し、たくさんの方が必要であったため、準備期間の半分以上が山の製作となりました。山の準備ができ



小川副会長から三ツ山大祭についての説明を受けて、玩具づくりのスタートです。

まずは山に色を塗り分けするためのマスキングテープを貼ります。好きな山から色を塗っていきます。五色山を塗るときは色の順番を間違えないようにみんな注意して取り組んでいます。小袖山には思い思いの小袖を描いてもらいました。

次に山上殿を作ります。向きに気を付けて屋根を接着。車輪に車軸のパーツを取り付け、台車にグルーガンで取り付けまし



たら、台車となる部品を作っていきます。木を切り出し、台と車輪を作ります。子どもたちに怪我がないようにやすりがけも忘れずに。

部品の製作が済んだ講習会最終日は、参加者のみなさんが玩具づくりに挑戦しました。製作の過程で大人でも難しい点を改善しました。

いよいよ体験会当日。元氣よく小学生たちが集まりました。田中会長から挨拶をいただき、

た。山と山上殿を、山と台車をボンドで接着し、固まったら完成！みんなお手本と作り方の紙をしっかりと見て、手を絵具まみれにしながらも集中して作業に取り組んでいました。

玩具ができあがり、余力がある子には二つ目の玩具づくりをしてもらいました。

一つ目は実際の三ツ山の色で塗ってもらいましたが、二つ目は自由に色を塗ったりイラストを描いたりしてもらいました。子どもたちの自由な発想が見られたり、好きなものが知れたり、楽しい時間となりました。二つ



作った子には、作ったどちらか一つを保存会に寄贈してもらい一つは記念に持って帰ってもらいました。

二日間で姫路市内の小学生十五名の参加がありました。子どもたちの真剣に取り組む姿に大変喜びを感じました。この体験が九年後の三ツ山大祭の頃に思い出してもらえたり、活動を手伝ってくれたり、未来につながることを期待しています。

ボンドでたのしく！

夏休み工作コンテストで入賞

白鷺小中学校三年 三和倫太郎君

夏休みつくりもの体験会に参加した児童さんのお母さんから嬉しいお知らせがありました。



白鷺小中学校三年、三和倫太郎君が二〇二四年ボンドのコンシ 第二〇回夏休み工作コンテストで入賞した旨のご連絡でした。倫太郎君は当会体験会でも集中力を発揮して黙々と取り組み、次々と作品を仕上げていました。



ボンド入賞作品は、コンシボンドを模した三ツ山があり、その山にはボンドを板状にして一つ一つ

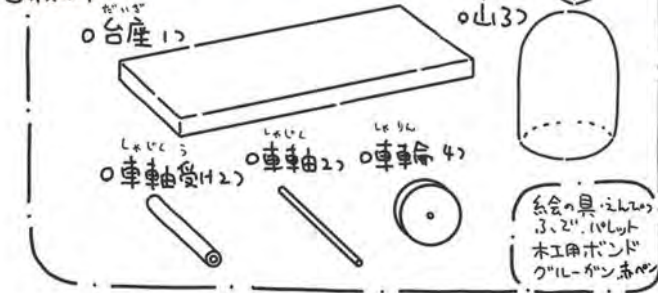
切り出して仕上げた小袖が張り付けられています。そのアイデアと意欲、根気に驚かされました。

八年後の三ツ山大祭で、つくりもの製作に参加している事を熱望します。



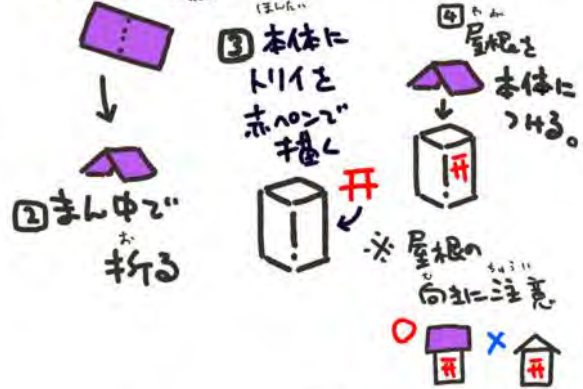
# 三ツ山玩具制作の手引き

◎材料◎

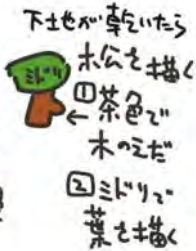


## ① 山上屋敷を作る

① 4ツサキの紙



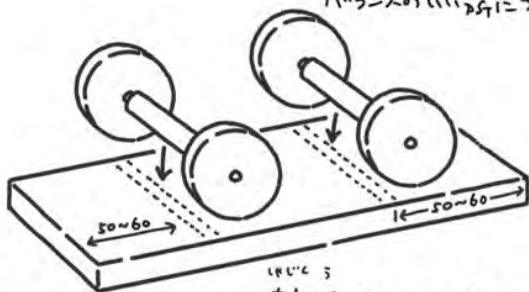
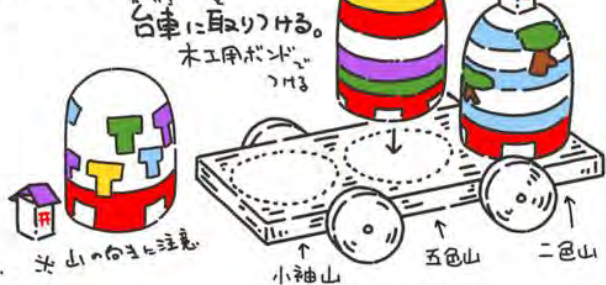
## ② 山のモヨウを描く



台座に車輪をとりつける

※ 山の高さに注意  
※ 外側が50~60mmくらい、11mm入の溝が深いところにつける。

## ④ 山上屋敷を山につけ



車軸受けをワッシャーで取りつける。※ 向き注意

完成



Yuki no Yama Douro Jun. 2024

## 造りもの展

(令和六年十月一日～十月三十日)

保存会の活動の成果を紹介するために、「造りもの展」を開催しました。

入口からエレベーターに乗り二階へ到着。扉が開くと、令和三年制作の大きな天狗と今年度開催の『総社夏休み三ツ山つくりもの体験会』に参加した小学校三年生&四年生の作品がお出迎え！

同じ題材の作品でもそれぞれ個性があり、来場の方はその違いをじっくり見て楽しまれていました。



「武者・にわかなりきり体験」と称し、これまでに作った鎧武者やにわか衣装を着る体験を実施しました。鎧を着て写真を撮る方や、にわか帽子だけをかぶってみるお子さんもうらっしゃいました。芳名帳には姫路・国内の方だけでなく、外国人観光客の方からコメントもあり、多くの方に保存会の活動を知ってもらおうきっかけとなりました。

## 小袖山に飾る小袖の陰干し

(令和六年十月九日)

小袖の陰干しを十月九日に行いました。まだ暑さ残る中、境内に広げたシートの上に色とりどりの小袖を並べていきます。三ツ山大祭の小袖山に飾る小袖を約二〇〇領陰干しできました。

保存会会長をはじめ、会員二〇名程のご奉仕をいただきました。

令和一五年の三ツ山大祭に向けて、皆様からのご寄進をお待ち申し上げます。



## 姫路城下にくりだす謡囃子

(令和七年一月十四日)

本年度七回目となる謡囃子。総社から飛び出しにぎやかな行列で姫路城下を練り歩きます。

姫路城下にくりだした総勢一三〇名余りの謡囃子行列。色とりどりの衣装や曳き物のインパクトが





沿道の注目を集め、地元の方や観光客の方々から声援をいただきました。  
 総社を出発してから約一時間三十分後に姫路駅前へ到着しました。午後からは、姫路駅北にぎわい交流広場での舞台にて謡囃子のステージの番が来ました。まずは、しんきひかり保育園の園児たちと三ツ山踊り保存会で、三ツ山踊りを披露。法被とハチマキ姿で一生懸命踊る園児たちに会場もほっこり。



次に姫路・城東連の登場です。鉦や太鼓の音が響き、三味線と笛に合わせて楽しそうに踊る姫路・城東連のみなさん。謡囃子の華やかで賑やかな雰囲気観客の方々が、駅前を通る方々にも改めて伝わったのではないのでしょうか。  
 その後の行列には、園児たちも合流し、より賑々しく総社へと練り歩きました。  
 本年も無事に謡囃子を実施することが出来ました。最後になりましたが、謡囃子に向けてご協力いただきました氏子・会員の方々、置塩城鎧工房の方々、しんきひかり保育園の方々、崇敬者・関係各位に心により感謝を申し上げます。

## 令和七年度 保存会事業予定

- 一、調査・研究事業 会報誌第十号発行
- 二、研修会・講演会事業 講演会
- 三、会議 役員会
- 四、その他関連事業行事等 小袖の陰干し  
つくりもの展  
謡囃子の実施

## 「悠久の歴史を伝える 播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭」

好評頒布中！

一ツ山大祭・三ツ山大祭のすべてがわかるこの一冊！  
 一冊三〇〇円 播磨国総社にて



悠久の歴史を伝える  
播磨国総社一ツ山大祭・三ツ山大祭

第 23 回  
播磨国総社三ツ山大祭  
令和 15 年 4 月斎行予定



---

発行 令和7年3月31日

発行所 播磨国総社 一ツ山大祭・三ツ山大祭保存会  
姫路市総社本町190 播磨国総社射楯兵主神社内

☎079-224-1111 fax 079-224-1114

【E-mail】[honzonkai@sohsha.jp](mailto:honzonkai@sohsha.jp) 【HP】<https://www.sohsha.jp/>

